

2010年 開発と権利のための行動センター総会資料

総会開催日2010年4月22日

2010年4月22日、横浜市にて総会を開催。2009年度決算・活動報告、2010年度予算・活動計画とも承認されました。

目次

1: 2009年度活動報告

2: 2010年度活動計画

別添: 2008年度会計報告

: 2009年度予算案

1: 開発と権利のための行動センター 2009年度の活動報告

1) グアテマラにおける先住民族組織支援プロジェクト

2009年度の活動は2008年度の助成金による2009年3月末までの活動と、それを踏まえた5月の現地訪問、現地組織との意見交換、評価などに基づき、10月に開始した継続事業及び10月より新規に開始した活動に大きく分かれます。

東部イサバル県における、自然資源の主体的管理を目指している先住民族コミュニティによるアソシエーション強化支援

グアテマラ東部のイサバル県はその広範な面積が自然保護区あるいは自然保護区計画地域に定められています。しかし地域のケクチ民族の意向を無視した自然保護区の設定や管理が各地で対立を引き起こしています。こうした中でいくつかの地域では先住民族コミュニティによる自然資源管理 - 自然保護区管理を目指す動きが展開されています。

現在開発と権利のための行動センターが支援しているシエラ・デ・サンタ・クルス計画地域におけるアソシエーション・イロル・キチェ(森の守り人: AIK)もその一つです。AIKはサンタ・クルス計画地域の約20のコミュニティが参加して結成され、地域の自然資源の管理他、教育や保健などを含めた地域開発に取り組んでいこうとしています。

行動センターでは、アソシエーションと調整しつつ、アソシエーションの強化のための活動を実施しました。今年度は組織強化のための研修、先住民族組織間での経験交流などを行いました。

現在は、同じケクチ民族出身の教員の支援を受けつつ、AIKの運営委員の組織運営能力強化のため、活動計画の策定とそのモニタリングの実施プロセスを、実際の活動を通じて向上させていくための支援を行っています。

こうした活動を通じて、代表任せではない、若い運営委員など、運営委員の組織運営への積極的参加、活動の透明性の向上、組織を構成するコミュニティとの意思疎通の改善、コミュニティのオーナーシップの強化といった成果が生まれつつあります。

こうした成果をもとに、2009年の10月からは運営委員の会議で3ヶ月ごとの活動計画を定め、担当者ごとに活動を展開し、そのモニタリングをしていくというプロセスをサポートしています。

またサンタ・クルス計画地域に存在する4つの住民アソシエーション間の連携を高め、将来的に協同して課題に取り組んでいくための連携会議の開催も支援しています。

この活動は「かながわ民際協力基金」の助成を受けています。

キチェ県北部イシル地域における、先住民族組織間の連携強化

アーユス仏教国際協力ネットワークの「パートナーシップ支援事業」の助成金を受けて実施している「グアテマラにおける『先住民族の自然資源への権利』に関わる住民組織強化およびネットワーク強化支援」のプロジェクトの一環として、キチェ県で活動を展開しています。

キチェ県北部のイシル地区は内戦時の弾圧が最もひどかった地域の一つでもあり、また遠隔な山間地であり開発からも取り残されています。また現在、水力発電ダムの建設計画があちこちで進められています。しかしながら地域の先住民族にはほとんど情報が届けられることもなく、政府の意向で一方的に計画が進められつつあります。こうした中で、地域の三つの自治体を含むイシル民族のテリトリーにおける様々な組織間の連携を強化し、情報を共有するとともに、協力して問題に対処していくための取り組みを支援しています。

この地域での活動に関しては、3月で一端休止した後、5月の現地訪問で関係団体との意見交換や現地視察を重ね、これらの地域で活動する多数の住民組織が、それぞれの知見を共有し、かつ協力して問題に対処していくための、住民組織間の連携を高めていくための活動に取り組んでいく方向を定めています。

キチェ県、コッツアルのイシル民族の若者グループ支援 - 平和の文化を築くために -

グアテマラのキチェ県北部のイシル地域にあるサン・フアン・コッツアルは、36年間にわたる内戦の被害がもっとも大きかった地域の一つです。地域社会は分断され、政府軍による弾圧が繰り返されました。内戦終結から10年以上経ちますが、暴力によって支配された時代の傷口はいまだ癒されてはいません。更に数年前から「マラス」と呼ばれる若者グループによる暴力が大きな問題となりつつあります。

こうした中で、コナビグア(連れあいを奪われた女性たちの会)による、青少年への人権教育やエンパワーメントのための研修に参加した若者たちが集まり、自分たちの地域社会の問題解決に貢献し、また地域社会の中での参加のスペースを広げていくために、地域の若者たちによる組織を結成しました。こうして生まれたのが CONJUPAZ (Coordinadora Integral de la Juventud Maya Cotzalense por la Paz : マヤ・コッツアルの若者たちの平和のためのコーディネーター)です。

CONJUPAZ では、内戦孤児の子どもなど経済的にも厳しい若者(男女)とともに、平和の文化のもとでの共存を目指して、人権教育、子どもの親たちへの人権問題への触発、政治参加の促進のための研修活動などを進めつつあります。

行動センターでは2008年の活動にPC購入を支援しましたが、その後の現地の治安状況の改善を踏まえ、CONJUPAZ と今後の活動について協議、2009年10月より JICA の寄付金を得て、地域の青少年に対する PC 操作研修及び、研修事業実施プロセスを利用した組織強化の活動を行っています。

「先住民族の権利法」制定の意味についての理解促進プロジェクト

グアテマラ国内の先住民族組織(CONIC, AJCHIMOL)や人権組織(CALDH)の先住民族担当部署などと協力して、先住民族の権利法の法案について理解を促進するための活動を実施

キチェ県、チキムラ県、アルタ・ベラパス県、サン・マルコス県などで研修を実施した。

この活動は庭野平和財団の助成を受けている。

3) 国内での諸活動、アドボカシー活動など

南米連続勉強会

開発と権利のための行動センター、日本ラテンアメリカ協力ネットワーク(RECOM)、先住民族の10年市民連絡会との共催で、南米の先住民族の状況について連続勉強会を開催。

2009.2.21 南米連続勉強会 第1回 エクアドル 講師 新木秀和

2009.3.14 南米連続勉強会 第2回 ボリビア 講師 藤田護

- 2009.4.25 南米連続勉強会 第3回 コロンビア 講師 千代勇一
2009.5.13 南米連続勉強会 第4回 コロンビア 講師 柴田大輔
2009.5.23 南米連続勉強会 第5回 ペルー 講師 岡田勇

勉強会の報告は RECOM のニュースレターに掲載

その他の勉強会、報告会

2009.2.5 国際交流基金「異文化理解講座：農産物で見る中南米」にて講演

2009.4.8 グアテマラ 勉強会開催 RECOM との共催

2009.6.7 報告会：「コロンビアの先住民族の人々とともに」 講師 柴田大輔
横浜市栄区 あーす・ぷらざにて開催

2009.9.12 コロンビアの先住民族の状況とビデオ制作(講師：シネミンガの溝口さん、カルロスさん)

2009.12.6-12.13 「戦時性暴力の被害者から 変革の主体へ」---グアテマラ先住民族女性の声を聞く---開催に協力

水と大地のネットワーク

2009.2.28 特別セミナー：地域の元気で温暖化を防ごう！「地域の資源を利用した小規模水力発電の可能性 - 地域の電気と元気で自立した地域社会を目指す。」

高知県梼原(ゆすはら)町 にて開催

2009.5.30 「水と大地のネットワーク」& 全国小水力利用推進協議会

公開シンポジウム 『小水力の魅力と高知県の可能性 梼原町の経験から』高知県高知市にて開催

人権侵害への抗議行動など

2009.2.4 グアテマラにおける人権侵害に対する緊急行動

2009.6.10 ペルーにおける先住民族の運動弾圧に抗議声明

2009.11 チッタゴン丘陵和平協定を求める世界同時キャンペーンへの協力

2009.11 パナマにおける強制排除への抗議行動

投稿・寄稿、掲載記事など

2009.2.14 先住民族の10年市民連絡会ニュースレターに、パナマの先住民族に関する記事掲載

2009.5 JP通信 156号に「新しいボリビアを目指す新憲法の公布」寄稿

2009.12 かながわ民際協力基金ニュースレターへの掲載

4) ブログによる情報発信

記事一覧は別添

5) 組織運営について

会費、寄付金とも伸び悩んでいる。

会員数は賛助(サポート会員)含め12名程度

寄付者も10名程度である。

メーリングリストを一般に開放し、メール会員の制度も開始した。

その結果、現在、メーリングリスト登録者(メール会員)は41名と増加。

理事 代表

青西靖夫、代表代行

木村剛、理事

栗田桂子

2: 2010年度の活動計画案

1) グアテマラにおける先住民族組織支援プロジェクト

東部イサバル県における、自然資源の主体的管理を目指している先住民族コミュニティによるアソシエーション強化支援

現在実施中の、シエラ・デ・サンタ・クルス計画地域におけるアソシエーション・イロル・キチェ(森の守り人: AIK)の組織強化プロジェクトの継続。

またサンタ・クルス計画地区の4つの住民組織の連携を強化するための活動も行っていく。

先住民族組織強化支援: 連携強化と戦略策定支援

キチェ県で行ってきた地域組織の連携強化のための活動の継続

上記と関連しつつ、イサバル県、リビングストンにおける先住民族組織等の連携強化への支援を進める。

キチェ県、コッツアルのイシル民族の若者グループ支援 - 平和の文化を築くために -

2009年10月より5月の予定で、JICAの寄付金を得て、地域の青少年に対するPC操作研修及び、研修事業実施プロセスを利用した組織強化の活動を行っていく。この活動を通じて、地域の青少年の就業機会の向上、CONJUPAZのメンバーの社会参加の機会の拡大、さらに、CONJUPAZが主体的に国内外の資金にアクセスして、地域の青少年に必要なとされる活動を行っていくようになることを目指している。

先住民族による自然資源の管理および利用に関する事例の収集・分析

今後の活動を的確に行うため、グアテマラおよび中米各国における「先住民族による自然資源の管理」に関わる調査事業を実施する。(地球環境基金へ申請の予定)

2) パナマ国の先住民族組織活動状況調査及びナソ民族組織支援

パナマ国の先住民族組織との情報交換・意見交換を行い、可能な支援策について検討するとともに、実施する。

3) 情報発信・ネットワーク

-これまで継続してきたブログにおける情報発信の継続

-有料のメールマガジン発行について検討を進め、可能であれば発行する。

-環境面での活動などにおいて、国内外の動きの接点としての機能を強化する。/「水と大地のネットワーク」

4) 組織強化

5) その他

* 当会の目的に沿って必要と思われる、調査研究、現地支援活動の実施。またそのために必要な資金獲得のための諸活動の実施。

* また上記の活動のために必要な人材の派遣を行う。

6) 役員の改選に関して 今年度は役員の改選はない

理事 青西靖夫、木村剛、栗田桂子